

氏名	福安 悠介
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6555 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	The effect of Humanitude care methodology on improving empathy: a six-year longitudinal study of medical students in Japan (医学教育におけるユマニチュードによる Empathy(共感性)の向上について -日本の医学生を対象とした6年間にわたる研究結果-)
論文審査委員	教授 大塚文男 教授 頼藤貴志 准教授 岡田あゆみ

学位論文内容の要旨

目的：本研究は、医療者にとって切要である Empathy (共感性) について、「医学生の Empathy はユマニチュード (以下 HA) により向上し、維持される」という仮説を検証するために、6年間にわたっておこなわれた。

方法：2013年に岡山大学に入学した115人の医学生を対象とした。彼らはコミュニケーション技法のトレーニングに参加後、Jefferson 共感性スケール (JSE) を7回受けた：医学部入学後、医療面接参加前・後、HA 講義参加前・後、第5・6学年である。全体の69%に当たる79名が全てのJSEを終了した。

結果：JSE の平均点は、医療面接のプログラム後 ($p<0.01$)、HA プログラム後 ($p=0.001$) 共に統計学的な有意差を持って向上を認めたが、Empathy 向上の維持は認められなかった。

結語：HA の講義やワークショップは、医療面接プログラムと同様に、医学生の Empathy の有意な向上効果を有するが、持続的な効果のためには、HA や医療面接、その他の教育プログラムによる追加の強化が必要である。

論文審査結果の要旨

申請者は、医療者にとって切要である Empathy (共感性) について、「医学生の Empathy はユマニチュード (以下 HA) により向上し、維持される」という仮説を検証するために、6年間にわたって、2013年に岡山大学に入学した115人の医学生を対象として研究を行った。対象者はコミュニケーション技法のトレーニングに参加後、Jefferson 共感性スケール (JSE) を7回 (医学部入学後、医療面接参加前・後、HA 講義参加前・後、第5・6学年) 受け、全体の69%に当たる79名が全てのJSEを終了した。

研究結果として、JSE の平均点は、医療面接のプログラム後 ($p<0.01$)、HA プログラム後 ($p=0.001$) 共に統計学的な有意差を持って向上を認めたが、Empathy 向上の維持は認められなかった。

結論として、HA の講義やワークショップは、医療面接プログラムと同様に、医学生の Empathy の有意な向上効果を有するが、持続的な効果のためには、HA や医療面接、その他の教育プログラムによる追加の強化が必要であるという知見が示され、この内容は教育的な視点から重要な業績と認められる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。